

アカデミック・スキル

科目責任者 矢 澤 卓 也

学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

大学で主体的・積極的に学ぶために必要な技法（アカデミック・スキル）について学修する。大学生としての授業への取り組み方や社会人としての態度，作法について学修する。また学術的な文章を作成し表現するための基礎的な知識に加え，論理的に考える方法について学修する。

II. 担当教員

教 授 矢 澤 卓 也（病理学）
教 授 小 西 美 樹（小児看護学）
准 教 授 小 嶋 英 史（研究連携・支援センター）
准 教 授 馬 籠 信 之（基盤教育部門）
准 教 授 阿 部 渉（基盤教育部門）
准 教 授 村 山 晴 夫（健康スポーツ科学）
准 教 授 杉 本 智 恵（先端医科学研究センター）
学内准教授 奥 田 竜 也（基盤教育部門）
学内准教授 能 登 慶 和（語学・人文教育部門）
学内准教授 川 瀬 摂（基盤教育部門）
講 師 松 岡 佐 知（国際交流支援室）
講 師 矢 澤 華 子（病理学）
講 師 梅 澤 規 子（基盤教育部門）
講 師 廣 田 美 玲（語学・人文教育部門）
講 師 藤 森 俊 明（基盤教育部門）
講 師 野 畑 友 恵（基盤教育部門）
学 内 講 師 上 杉 奈 々（教育支援センター）
学 内 講 師 小笠原 健（基盤教育部門）
学 内 講 師 枝 伸 彦（健康スポーツ科学）
学 内 講 師 石 川 知 弘（微生物学）
学 内 講 師 布 矢 純 一（微生物学）
助 教 岩 本 雅 美（病理学）
助 教 柏 木 維 人（病理学）
助 教 石 井 順（病理学）
助 教 東 覚（薬理学）
助 教 森 田 亜須可（薬理学）
助 教 佐 藤 元 康（生化学）
助 教 佐 藤 洋 隆（微生物学）
助 教 今 弘 枝（実験動物センター）
助 教 加 藤 匠（情報基盤センター）
助 教 上 坂 優 一（基盤教育部門）

他，看護学部教員

外部講師

Ⅲ. 一般学習目標

大学生として主体的、積極的に学ぶために必要な技法について理解する。

Ⅳ. 学修の到達目標

1. 学問の重要性を理解し、獨協医科大学医学部で学ぶことの意味を理解できる。
2. 大学生としてのアカデミック・スキルとキャンパスマナーを実践できる。
3. 大学での学修と自分自身の将来像との関連性を説明できる。

Ⅴ. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
 6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	4	10	木	1	[講義・演習]ガイダンス 学びの本質を理解し、何のために大学で学ぶのかを考える。	小西美樹、 関根恭子、 遠藤由美、 木村智也、 戸沢美緒、 井上卓也	1,3
2		10	木	2	[講義・演習]ガイダンス 学びの本質を理解し、何のために大学で学ぶのかを考える。	小西美樹、 関根恭子、 遠藤由美、 木村智也、 戸沢美緒、 井上卓也	1,3
3		10	木	3	[講義・演習]キャンパスマナー 学生や教職員など大学でお互いに尊重しながら学び、生活するための方法を学ぶ。 アンプロフェッショナルな学生とは何かを理解する。	奥田竜也、 矢澤卓也、 小西美樹、 石連地己子、 木川純子、 戸村智美、 阿沢寿徳、 井上美緒	1,3
4		11	金	1	[演習]コミュニケーションスキル	医学部教員、 小西美樹、 関根恭子、 遠藤由美、 木村智也、 戸沢美緒	3,4
5		11	金	2	[演習]コミュニケーションスキル	医学部教員、 小西美樹、 関根恭子、 遠藤由美、 木村智也、 戸沢美緒	3,4
6		11	金	3	[講義]獨協学園の歴史 先人たちの思想を知り、自分との接点を見出す。	吉田謙一郎	1
7		14	月	1	[講義・演習]医療者に必要な健康と生活の管理 医療者 (医療系学生) に求められる健康と生活の管理について考える。	戸沢智也	1,2,3,5

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
8	4	14	月	2	[講義・演習]医療者に必要な健康と生活の管理 医療者（医療系学生）に求められる健康と生活の管理について考える。	戸 沢 智 也	1,2,3,5
9		14	月	3	[講義・演習]情報を集め、管理する技術 読書に親しむ習慣を身につける。 文献や資料を収集する方法を学ぶ。	小 西 美 樹	1,2,3,5
10		16	水	1	[講義]ディスカッションのしかた 議論する目的と意義、相手の話を聞く態度について学ぶ。	柏 木 維 人	1
11		16	水	2	[講義]ディスカッションのしかた 議論する目的と意義、相手の話を聞く態度について学ぶ。	柏 木 維 人	1
12		16	水	3	[講義]プレゼンテーションのしかた パワーポイントを使い、効果的に相手に伝える方法を学ぶ。	川 瀬 摂	1
13		21	月	1	[講義]レポートの書き方 論証型レポートの書き方について学ぶ。	石 井 順	1
14		21	月	2	[講義]レポートの書き方 論証型レポートの書き方について学ぶ。	石 井 順	1
15		21	月	3	[演習]医療現場の接遇	外 部 講 師	1,2,3,5
16		30	水	6-7	[演習]プレゼンテーション演習<ゼミ> 16:20-17:50	医 学 部 教 員, 看護学部教員	1,2,3,5
17	5	7	水	6-7	[演習]ディスカッション演習<ゼミ> 16:20-17:50	医 学 部 教 員	1,2,3,5
18		14	水	6-7	[演習]レポート演習<ゼミ> 16:20-17:50	医 学 部 教 員, 看護学部教員, 小 西 美 樹	1,2,3,5

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

成果物（レポート、プレゼンテーション資料、議事録）の評価40%、ゼミ演習の参加度30%、リフレクション（本日の講義を踏まえて考えたことや新たな疑問を記述したもの）の提出30%とする。

VII. 教科書・参考書・AV資料

- 1) 名古屋大学高等教育研究センター、ティップス先生からの7つの提案 学生編 (<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/student/index.html>)
- 2) 小野田博一. 13歳からの論理ノート「考える」ための55のレッスン. PHP研究所.
- 3) 世界思想社編集部. 大学生 学びのハンドブック 5訂版. 世界思想社.
- 4) 佐藤 望, 他. アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門. 第3版. 慶應義塾大学出版会.
- 5) 向後千春. 18歳からの「大人の学び」基礎講座. 北大路書房.
- 6) 鈴木克明, 美馬のゆり. 学習設計マニュアル「大人」になるためのインストラクショナルデザイン. 北大路書房.

VII. 質問への対応方法

随時、質問を受ける。授業に関する内容については、クラス全体にフィードバックする。

矢 澤 卓 也: tkyazawa@dokkyomed.ac.jp オフィスアワー 水曜12:00~13:00

小 西 美 樹: konimiki@dokkyomed.ac.jp オフィスアワー 水曜12:00~13:00

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・講義資料は事前にLMSに掲載し、学生の学修状況を確認する。
- ・演習時は、与えられた課題に基づいて小グループでディスカッションを行い、各々の意見を交換し合う。
- ・LMS等を用いて学生の理解度を確認し、講義内で補足説明する。
- ・講義内で実施した課題やLMSに挙げられた質問については、講義内やLMSで回答・解説する。
- ・成績評価の結果は、「授業評価の回答および成績評価の講評」に記載しフィードバックする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学修：事前に配布される講義資料に目を通し、発表の準備を行う、あるいはレポートを作成する（30-60分）。

事後学修：リフレクション（本日の講義を踏まえて考えたことや新たな疑問を記述したもの）、あるいは修正したレポート／プレゼンテーション資料をLMSにて提出する（30-60分）。

XII. コアカリ記号・番号

PR-01, PR-02, PR-03, PR-04, LL-01, LL-02, IT-01, IT-02, IT-03, IP-01, IP-02